

(別紙の2)

## 自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「住み慣れた地域で、最後までその人らしく住み続けられる」という法人の理念に基づき、グループホームの理念を作成しており、会議の始めに読み上げるようにしている。	グループホームあやめの設立への想いを元に「地域の中で自分らしく生き続けたい」の理念に基づき基本方針が明記されており、日々のサービス提供の場面において、管理者及び職員は理念について振り返って、実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議には地域の色々な方々に参加していただき、グループホームでの様子を伝え、理解を深めている。「あやめ便り」を通じて、グループホームの活動内容や日頃の様子を発信している。今年度も感染症予防のため、保育園・小学校との交流会を中止している。	ホームの隣の畑から、未満児学級の元気な子供たちの声が聞こえたり、そこでのさつま芋交流やご近所から野菜のお裾分けがあったり、周辺の散歩での声掛け、玄関先に飾られた菊など、地域との交流がなされています。定期的に地域に発行されている「あやめ便り」には、ホームの様子をお知らせして、更に地域との繋がりに努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議には地域の色々な方々に参加していただき、グループホームでの様子を伝え、理解を深めている。「あやめ便り」で年4回、グループホームの活動内容や日頃の様子を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、会議終了後にアンケートを実施している。質問や疑問にあがったことを職員会で報告し、前向きに検討している。	会議は対面会議を行い、毎回終了後には、議題に対するアンケートを実施しています。頂いた意見から、利用者に手を掛け過ぎているのでは？の意見もあり、自立支援の見直しを行うなど、サービス向上に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議には、地域包括支援センターの方に出席・書面閲覧していただいている。川路自治振興センターの新しい職員の方にも、出席・書面閲覧して頂いている。	制度の見直しや外部評価受審の通知の事など、必要に応じて協力関係を持っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化検討会を3ヶ月毎開催し、現在の状況確認・実態把握をみんなで話し合い、改善の目安や時期について確認した。	身体拘束適正化検討会では、状況や現状を確認し合っています。ホームでの実際の事故事例を検討したり、風呂入り口の滑り防止について話し合うなど、ホームの固有リスクを把握し、利用者の生活を整えるケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	感染症予防のため、外部の研修は見合わせた。リモートでの研修も増えているため機会があれば参加する予定。身体拘束適正化検討会で、現在の状況確認・実態把握をみんなで話し合い、改善の目安や時期について確認した。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者さんの中には、自分で金銭管理をされている方が最近までいた。トラブル防止の為、金銭はこちらで保管させていただいているが、関わる職員を限定して、金銭の対応をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	今年度も、コロナ禍のため家族会を中止した。運営推進会議は無事開催できるようになっており、不安や疑問があれば、直接聞いたりアンケートを出したりして対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や運営推進会議の後に、アンケートを実施している。そこでの意見や提案については、職員会や法人の所長会議でも報告し、話し合っている。	運営推進会議で家族からの意見や提案を聞いています。利用者の「昔の友達に会いたいな」との意見から、隣のサロンに遊びに行くなど、出された意見等は利用者や家族等、職員と共有し、介護計画に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会であがった議題について、法人の所長会議で検討している。所長会議で解決できないことは、法人の運営委員会で話し合っている。	年1回の個人面談を行い、要望や意見等を聴く機会を設けています。お隣のサロンへの行き来など、日常的なケアについて、係から出された意見等は、職員会にて更に検討され、アイデアの反映に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	日頃の会話の中で、聞き取りを行っている。年1回の自己評価や面接の際に、各職員が向上心を持って働けるよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各職員が、かつて色々な事業所や違う介護現場で働いていたので、それぞれの高いスキルを感じている。それぞれが得意分野で力を発揮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	南信の管理者を対象とした研修に参加し、同業者との接点を作れた。感染予防の観点から相互訪問は出来ていないが、話を聞くことは出来た。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	私たちは、信頼していただけるようにしっかりとコミュニケーションを図り、円滑な関係づくりを心掛けている。利用者さんの心配事とその都度しっかり向き合い、グループホームが居心地の良い場所となるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービスの導入段階では、ケアマネと管理者が家族の不安や要望に耳を傾け、その後は担当職員が窓口となり、色々な相談にのっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人とご家族の意向を確認している。できるだけ、今までの生活が変わってしまわないよう、徐々にグループホームでの生活に慣れていただけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者さんに役割を果たしていただけるような場面を探し、提供するとともに、役割を果たして下さった時は、感謝の言葉を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	それぞれの利用者さんに担当職員を設け、ご家族への連絡は担当にお願いしている。毎月利用者さんの様子を手紙でお伝えしており、個人購入の品など、ご家族に買ってきていただくことで交流の機会を定期的に持つてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者さんの親戚や友人、近所の方々などに気軽に面会に来ていただけるようにお伝えしている。感染症予防の為、面会やボランティアの受け入れは見合わせていたが、少しずつ緩和されてきている。	畑仕事の時期になり、家に帰る利用者や、自宅への外泊、家族との外食、先祖への墓参りなど、そんな利用者の想いを大切に、一人ひとりの生活習慣を尊重しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者さん同士の関係を職員が共有するよう努めている。そして、利用者さん同士が自然に関わりが持てるような環境づくりを心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	本人の希望やご家族の環境作りのおかげで退所し、在宅復帰出来た利用者さんに対し、在宅生活での相談を受け入れ、踏み台の貸し出しなど臨機応変に対応した。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者さんの希望や意向を大切に、日頃からコミュニケーションを大事にしている。また、利用者さんを中心とした支援が行えるよう心掛けている。ご家族・関係者から入所以前の情報を得るようにしている。	コミュニケーションが困難な利用者には、どんな時に良い表情をするのか、何があっても不機嫌になるのかなど、日々記録に残して思いを共有するよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前に、これまで過ごしていた施設やお世話になっていたケアマネージャーから情報提供していただいたり、ご家族や友人知人の話を聞いて、十分な把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の生活リズムを理解して、持てる能力が発揮できる状況を見極めながら支援に努めている。利用者さんの、わかることやできることを職員同士で確認しながら行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人らしい暮らしを支援するため、日々の生活の中から課題を見つけ、担当職員を中心にモニタリングを行い、職員会でカンファレンスを行っている。また、ご本人やご家族に意見・要望を聞いて反映し、状況に応じた介護計画を作成している。	介護計画に基づいた実施記録にて、アセスメントを行い、日々の意見交換やモニタリングを実施しています。利用者から「やることなくつまらん！」など、利用者や家族からも意見を聞いて、担当者会議において話し合い、計画の見直しを行って、現状に即した介護計画となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	食事量や排泄状況等の他、ご本人の言葉や行動などのできごとを記録している。その他「連絡ノート」を作り、職員間で情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者さんの状況に応じて、買い物代行や病院への受診、入院のお手伝いなどを支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近所のお店まで散歩しながら、気分転換を図っている。今年度は感染症予防の為、ボランティアや交流会の受け入れを制限してきた。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の往診時、状況報告を往診記録に残している。薬や体調面の心配事などを、利用者さんから直接先生に話を聞いてもらうようにしている。	家族による通院や月2回の往診で対応しています。通院時の情報交換は、家族から直接様子を聞いています。往診時は記録用紙に病状観察が記載され、適切な医療が受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	専任の看護師さんに、日頃の健康状態や医療面での相談や処置をして頂き、医療連携をした。緊急時には、「さろんあやめ」の看護師も協力して対応してくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のご様子を時々ご家族へうかがい、回復状況などの情報をいただき、退院時には速やかにご本人の状態に合わせた支援ができるように心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化・終末期対応の指針を作成しており、私共とご家族、主治医にも協力して頂き、みんなが納得できる方針で話を進めている。	入居時に、重度化した時の方針をチームで話し合い、事業所として対応する事を説明しています。状況が変化した場合は、医療関係者と共に今後について繰り返し話し合いを持ち、方針を決めながら支援しています。	「歳を取っても地元で生き続けたい」そんな思いを持って、本人や家族、医療機関関係者等、事業所側の状況変化の度に、繰り返し話し合いを行っていますので、更に、これらを文章や記録にする事を、検討されるよう望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	専任の看護師さんに、いつでも電話で相談できる環境を整えており、職場内で、急変や事故時の対応について研修をしました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練を年3回行った。その内の1回は、地域と合同で行い、実際に開設された避難所への避難訓練を行った。	地域の避難訓練に参加して、利用者全員小学校の体育館に避難し、地域の人達の協力を得ました。実施後は、全員で課題を明確にし、次の訓練計画に活かしています。事業所には、自家発電装置が設置され、水も確保されています。	更に、災害の種類・大きさ・当日の季節・利用者や職員の状況・家族や職員の被災状況等々、様々なリスクを拾い出し、具体的な対策を検討されることが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	以前に比べ、指示が伝わらない利用者さんが増えているが、利用者さん一人ひとりがゆっくり過ごせるグループホームを目指していけると良いと思う。	あやめの理念に「利用者の尊厳を守ります」と有り、その人の意思を無視して尊厳を傷つけないケアの研修を行っています。非常勤職員には資料を渡して、日常的にケアを振り返り、職員全員で気をつけるように努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者さんのそれぞれの状態に合わせて、できるだけ自分で決めていただくように努めている。また、各担当職員がそれぞれの利用者さんの希望や好みを見極め、生活の中へ取り入れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合に合わせてではなく、一人ひとりの体調や状況に合わせて個別性のある対応を心掛けている。認知症でできないことに対して、丁寧にゆっくり時間をかけて相手が理解するのを待てない場面もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分の好きな洋服を選ぶように、ご本人の気持ちに配慮した支援をしている。定期的に理美容や訪問美容を依頼し、その人らしさを保てるよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者さんと一緒に、野菜の下ごしらえや味噌汁、カレーを作ったり、食器や湯飲み拭きなどをしたりするような、個別にできることを手伝っていただいている。	調理は業者を利用していますが、五平餅・汁物・お彼岸のおはぎ・ぼたもち・ちらし寿司・おやつホットケーキ・流しそうめん・胡瓜の粕もみなど、職員と一緒に楽しく行っています。重度化された利用者にはその人に応じた食事形態にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食利用者さんと職員が同じ物を食事している。観察しながら、食べやすい形態を検討して工夫したり、食べる量を検討したりして利用者さんの体調に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後には個別に声かけし、口腔・舌のケアを行っている。見守りや、介助が必要な方にもできるだけご本人に行っていただき、できない部分の介助をさせていただいている。利用者さんによっては、歯科衛生士さんに入って頂き、歯磨き指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	トイレの場所を分かりやすいよう表示している。声かけに配慮しながら、ご本人の習慣やパターンに合わせた誘導を行っている。	トイレでの排泄を大切に、一人ひとりの排泄パターンを記録して、申し送り時に共有しています。紙パットやパット類も本人に合わせて対応し、常に見直しを行っています。排便研修も行っていきます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄パターンを記録し、便秘予防に努めている。日頃から散歩や屋内での適度な運動、手作りヨーグルトを毎日食べて、便秘の予防をしている。下剤を使い過ぎないように話し合っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	利用者さんの好みに合わせた室温・湯温を心掛け、ゆっくりとお風呂に入りたい方は、順番やその日入る利用者さんに配慮している。立位が困難になってリフトを使って入浴することができる。入浴剤などを使い、リラックスした雰囲気を中心している。	ゆっくり楽しんで入浴できるように、しょうぶ湯やゆず湯・みかんの皮を使用するなど、季節の入浴を楽しんでいます。拒む人には時間をずらしたり、声かけの工夫をするなど配慮しています。リフト使用で入浴できるので、安心して入浴を楽しむ事が出来るよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動を増やして生活リズムを整えている。午睡の習慣のない方には、読書、軽作業など、自分の好きなことをして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ケースに服薬内容の明細を置き、各職員が内容をいつでも確認できるようにしている。確実に服薬できるように管理表へ1日分を並べ、一目で飲み忘れが確認できるようにしている。薬の変更があった場合は、その後の様子などを観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者さん同士が助け合い、協力し合って生活を送ることで、良好な関係が作られるので、生活に張り合いが持てるように支援している。個々に得意なことや、お願いできそうな仕事を依頼し、その都度、感謝の言葉かけをするようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日には外へ散歩やドライブなどに出かけ、気分転換をしている。食材や日用品の買い出しにも、同行してもらっている。	お花見・花桃・紅葉狩り・葉の花畑へのドライブ、ホーム周辺やレンガ道の散歩など外の空気を味わっています。利用者が車いすを押している姿もあります。個別の外出支援は家族の協力を得て行っています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者さんによっては、銀行にも一緒に行って金銭管理のお手伝いをしていました。利用者さんの認知度によってはお金の管理や買い物物の自由など臨機応変に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者さんによっては携帯電話を持参し、いつでも連絡が取れるように支援している。グループホームへきた電話に、ご本人に出でいていただいて、話してもらうこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共同スペースには季節の分るような飾りを飾ったり、花を飾ったりして心地よい空間作りを目指している。	共有空間は、すっきりと整頓されており、季節の花が飾られたり、大きい窓からは畑が眺められたりと、開放的です。管理者が描いた季節の山菜の絵が貼られ、利用者からは「超難問だ・・・」と、何の絵なのかを当てながら皆さんで盛り上がっていました。リビングにあるソファには、気の合った利用者同士が肩を並べて外の風景を眺めながら、くつろいでいました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	外が見える窓際にソファを置き、気の合う方々でゆっくり話ができる場所としている。天気の良い日は、広いベランダで日向ぼっこをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者さんが、それぞれにとって居心地の良い居室になるように、担当職員を中心に職員会で話し合い、ご自分の好きなハーモニカやラジオカセットを置いて、ゆったり過ごしてもらっている。	居室のベッドや家具は、安全を考慮して配置されています。ラジオカセットや好きなハーモニカを演奏したりして、ゆったりと過ごせられるよう工夫しています。職員と一緒に掃除をする利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや自分の居室が分かりやすいよう目印や名前を付けている。できるだけ、ご自分の部屋をモップなどで掃除して貰っている。		